

哲学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2015(H27)3	ヒューム『人間本性論』における経験論の基底—「生氣」概念の内実と意義の解明—
2016(H28)3	ショーペンハウアーにおける個性の意義の探求
2017(H29)3	J. G. フィヒテ『道德論』における自由論の探究
2017(H29)3	ベルクソンと笑い
2018(H30)3	マルブランシュにおける自然的判断理論 —機械論的再構成とその限界—
2018(H30)3	メーヌ・ド・ビランにおける受動性の問題
2019(H31)3	カントにおける平和概念を支点とした法から倫理への踏み越えについて
2019(H31)3	W.V.クワイン『論理的観点から』における概念的図式による探究の実相
2019(H31)3	カントにおける超越論的理念の実在性について
2020(R2)3	苦しみからの逃走——前期レヴィナスにおける存在の問題——
2020(R2)3	フッサール時間意識論における時間の「根源」の問題——『内的時間意識の現象学』を手引きに——
2022(R4)3	ヘーゲル『精神現象学』における「意識」章の学的境位
2022(R4)3	真理と主体の戯れ——フーコーにおける知への意志の問題——
2022(R4)3	デカルトにおける感覚と精神の諸能力の協働
2022(R4)3	メーヌ・ド・ビランにおける心身関係と努力について
2022(R4)3	ルソーの政治哲学における宗教の所在
2023(R5)3	ジョン・ロールズ『正義論』における道徳的人格について
2024(R6)3	ドレスデン期フリードリヒ・シュレーゲルの歴史哲学構想
2024(R6)3	カント『判断力批判』第一部における媒介問題——「超感性的基体」の「規定可能性」の問題を中心に——

英文学・英語学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2015(H27)3	“He Ys Unhappy”: Mordred in Malory’s <i>Morte Darthur</i>
2016(H28)3	A High-level Metonymic Analysis of the Middle Construction in English
2016(H28)3	Foreign Language Anxiety of Japanese College Students in the English Oral Communication Classes
2016(H28)3	The Effect of Markedness on Native Japanese Speakers’ Perception of Nonnative Consonant Clusters
2016(H28)3	Does Collaborative Learning Contribute to the Understanding of the English Article System More Than Individual Learning?
2016(H28)3	The Relationship between the Student’s and the Teacher’s Beliefs of Written Feedback on English Composition
2017(H29)3	An Analysis of Impoliteness in English and Japanese in the Framework of Systemic Functional Linguistics
2017(H29)3	C. S. Lewis’s Anatomy of Love in <i>Till We Have Faces</i>
2017(H29)3	A New Constructional Model of the Resultative Construction
2017(H29)3	The Relationships Between Listening and Reading Speed in English as a Foreign Language
2017(H29)3	Angels in Milton’s <i>Paradise Lost</i>
2018(H30)3	The Relationship Between Music and Language in the Bilingual Mental Lexicon
2019(H31)3	The Treatment of English Tense and Aspect in the Framework of SFL
2020(R2)3	A Contrastive Analysis of Pro and Con Arguments about Brexit from the Viewpoints of Process Type and Critical Discourse Analysis in Systemic Functional Linguistics
2020(R2)3	John Keats and Apollo’s Lyre
2020(R2)3	A Counter to Cultural Assumptions: Gender, Body, and Violence in the Work of Miranda July and Carmen Maria Machado
2020(R2)3	Content and Language Integrated Learning (CLIL): Its Applicability in Japan
2021(R3)3	The Distribution of Prenuclear Pitch Accent on Transitive Verbs in English: Production and Corpus Studies
2021(R3)3	William Wordsworth’s “Home” in <i>The Ruined Cottage</i> and <i>Home at Grasmere</i> : Natural Tranquility and Sympathy
2021(R3)3	Cross-Cultural Pragmatics of Disagreement Strategies
2022(R4)3	A Proposal of the Constructional Network Around the Time-away Construction
2022(R4)3	You Think You Know Who They Are: How Julie Otsuka Describes the Minority’s Voices Through Narrative
2022(R4)3	On the Process of Subjectification and Intersubjectification of the Have it That Construction in Present-day English
2022(R4)3	Assertion of Citizenship and a New Community in <i>Angels in America</i>
2022(R4)3	A Cognitive Linguistic Analysis of Japanese Auxiliary Verb <i>te-kuru</i> : From a Viewpoint of the Control Cycle
2023(R5)3	Seeking a Voice “to Bridge the Gulf”: The Emergence of Contemporary References in W.H.Auden’s Early Works
2023(R5)3	Writing a National Opera: A Literary and Contextual Study of <i>Ivanhoe</i> (1891) by Julian Sturgis and Arthur Sullivan
2023(R5)3	Criterial Stance Markers in L2 Spoken Interaction
2023(R5)3	Beyond Immigrant Narratives: Diversity and Mobility in Jhumpa Lahiri’s Early Works
2023(R5)3	Characterization and Patience in <i>The Canterbury Tales</i>
2023(R5)3	Wilde’s Criticism against Physiognomy in <i>The Picture of Dorian Gray</i>
2023(R5)3	An Intersubjective Approach to the It is that-Construction

英文学・英語学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2024(R6)3	The Failure of Comradeship in Thomas Hardy's Jude the Obscure
2024(R6)3	The Role of Mother-Tongue Supporters in Pull-out Classes and Their Impact on Culturally and Linguistically Diverse(CLD) Students' Academic Performance and Success
2024(R6)3	A Negative Epiphany in Albee's A Delicate Balance : Edward Albee's Political Family Play
2024(R6)3	A Comprehensive Study on the Distribution and the Nature of the English Negative Prefix un-
2024(R6)3	Japanese EFL Learners' Knowledge of the English Ditransitive Construction: Insights from Acceptability Judgments

文化史学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2015(H27)3	帝国とヒューマニズム ―新渡戸稲造の信仰と陥穽―
2015(H27)3	近世近江国琵琶湖岸における生業の実態 ―大津尾花川町を事例として―
2015(H27)3	花山院師賢顕彰史 ―忠臣という師賢像構築過程の一考察―
2015(H27)3	「高野大師行状図画」十巻本の制作主体と制作意図についての考察
2015(H27)3	文書にみる鎌倉時代中期・後期の王権と東寺の関係―「教王護国寺」の使用を巡って―
2015(H27)3	開創伝承からみる高野山復興の諸段階―天野社の伝承と飛行三鈷伝承―
2015(H27)3	環瀬戸内地域における縄文／弥生移行期土器の研究
2015(H27)3	奈良円生院伝来水月観音図の図像的考察―十世紀の水月観音図像との比較を手がかりに―
2016(H28)3	裸形地藏菩薩像に関する考察
2016(H28)3	「鎌倉時代末期における長講堂領の管領に関する考察」
2016(H28)3	近世期における骨加工品生産の研究 ―一六～一八世紀大坂城下町における様相を中心に―
2016(H28)3	15・16世紀フィレンツェにおける捨子の社会復帰 ―インノチェンティ捨子養育院での教育と社会的「匿名」からの旅立ち―
2016(H28)3	救済へ導く皮革アムトの祭壇 ―後期中世ハンザ都市の手工業者による宗教空間の形成―
2017(H29)3	弥生時代における金山産サヌカイト製石器生産と流通の研究 ―打製石庖丁を中心として―
2017(H29)3	官設「飛騨鉄道」敷設請願運動の展開と挫折 ―第二期線関係者の運動事例の検討―
2017(H29)3	「龍泉寺資財帳」一連文書の基礎的研究 ―偽文書のなかの原史料―
2017(H29)3	「道成寺千手観音菩薩立像(胎内仏)」について
2017(H29)3	七博士建白事件の実像 ―金井延を中心として―
2017(H29)3	織豊期の造瓦活動に関する研究―製作技法からみた造瓦の変遷と工人論への一視点―
2017(H29)3	畿内における古代網漁の研究―遺跡出土の土鍾について―
2017(H29)3	諸道得業生試制度からみた古代学制の変容―「政治制度としての学制」研究の試み―
2017(H29)3	分断されるドイツ帝国―セダンの日祭典からみる国民統合の限界―
2018(H30)3	湯浅八郎第12代同志社総長在任時における旧軍用地問題
2018(H30)3	近世土人形の考古学的研究―京都出土資料を中心に―
2018(H30)3	弥生時代～古墳時代における玉生産の研究 ―出雲・北陸西部を中心に―
2018(H30)3	神武天皇聖蹟に関する基礎的研究 ―「鳥見山中霊時」を中心に―
2018(H30)3	足利義教の造像とその周辺 ～『蔭涼軒日録』の記載を中心に～
2018(H30)3	『関口日記』の基礎的研究
2018(H30)3	須原屋市兵衛の基礎的研究
2018(H30)3	「京都府違式誹違条例」の制定と運用に関する考察
2018(H30)3	「フランクフルト・スタイル」ジャズの成立過程にみるジャズ愛好者の一側面 ―ナチを経験した若者とドイツにおけるジャズ受容の過程
2018(H30)3	古墳時代中期初期須恵器小型品の製作技術

文化史学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2018(H30)9	大坂新刀の両雄・助広と真改の評価—ルーツを正宗に求める—
2019(H31)3	大正期における新興美術の受容と展開 —柳瀬正夢を例として—
2019(H31)3	セルジューク朝とイル＝ハン朝期の驚異譚にみる世界観 —トウズイーとカズウィーニーの『被造物の驚異と万物の珍奇』の検討—
2019(H31)3	古代ローマにおける庭園観 —ポンペイ遺跡の住宅事例を中心とする庭園およびその周辺の空間の考察—
2019(H31)3	ドイツ帝政期におけるツーリズムと景観保護 —ジーベンゲビルゲを事例として—
2019(H31)3	アメリカの「赤い10年」と「スウィング時代」 —共産主義の人民戦線運動における「アメリカ的な」音楽の役割—
2019(H31)3	古代メソポタミアの神々と王の関係性 —ウル第三王朝を事例に—
2019(H31)3	興福寺北円堂無著・世親菩薩像の再検討 —像名と尊名の問題を中心に—
2019(H31)3	偽石器研究序論
2019(H31)3	大津宮再考—東アジア的視点からの再検討—
2020(R2)3	鎌倉時代関東申次制度の研究
2020(R2)3	金剛力士像の形姿展開についての一試論
2020(R2)3	戦国期における造瓦活動の研究 —供給と使用からみた視点—
2020(R2)3	昇進ルートから見た平安時代後期の朝廷実務官人の編成
2020(R2)3	城郭と地域社会
2020(R2)3	中世における播鉢・捏鉢・甕の流通 —京都と鎌倉・草戸千軒町の様相から—
2020(R2)3	ヘンリー7世期イングランドの政策運営 議会文書に見る国王とコモンズの関係
2020(R2)3	戦間期インドシナにおける混血児保護問題—植民地の混血児はなぜフランス人となったか—
2020(R2)3	「平和市長」に関する一考察 —元長崎市長本島等を題材に—
2021(R3)3	縄文時代早期末葉から前期初頭土器群の再検討—本州西部日本海沿岸を対象に—
2021(R3)3	日野家と中世公家社会
2021(R3)3	医学と第一次世界大戦経験—ドイツ拘留中戦争捕虜と収容所における衛生管理に関する報告より—
2021(R3)3	富山市主催日満産業大博覧会の開催計画について
2022(R4)3	平安時代後期から鎌倉時代初期における毘沙門天の諸相
2022(R4)3	東方に臨む伽藍神——宋代土地神信仰の検討を通して——
2022(R4)3	「天満宮安楽寺の創建記録と信仰のかたち」
2022(R4)3	沖縄戦における日本兵捕虜の尋問報告書について—史料性格の整理と日本兵の士気に対する検討—
2022(R4)3	近代オスマン帝国の諷刺新聞における西洋文化——出版人テオドル・カサプの「翻訳」——
2022(R4)3	革命的市民を「演じた」人びと—18世紀後半フランスにおける「演劇」の拡大—
2023(R5)3	南方熊楠の神社合祀反対運動 —関連史料の多角的分析による全体像の再構築—
2023(R5)3	九世紀～十一世紀における正月大饗の諸相 —儀礼における礼作法の機能と参加者の視点から—
2023(R5)3	スーツを着た「アメリカ市民」 ——第二次世界大戦後アメリカにおけるファッション・市民権・市民闘争——

文化史学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2023(R5)3	叛乱の季節 ——西ドイツ「1968年」の抗議文化における暴力——
2023(R5)3	16世紀ヌエバ・エスパーニャにおけるキリスト教の布教方針の転換とその要因
2024(R6)3	雍正期における潮州の地域社会——知県藍鼎元を中心に——

国文学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2015(H27)3	武田泰淳作品における「精神病理学」批判の研究―「幻聴」及び「富士」の主題の連続性をめぐって―
2015(H27)3	『宇治拾遺物語』の＜史実＞と＜虚構＞ ―第一一四話・第一二八話・第一八六話をめぐって―
2015(H27)3	『源氏物語』の場面と歌
2015(H27)3	覚一本『平家物語』『名のり』考
2015(H27)3	宮澤賢治における生命への眼差しと「修羅」意識―＜流れるもの＞＜揺らぐもの＞をめぐって―
2015(H27)3	戦中・戦後における坂口安吾の古典利用―「閑山」から「土の中からの話」まで―
2015(H27)3	『萬葉集』の多音節訓仮名の研究
2015(H27)3	遠藤周作文学における医療の問題―『海と毒薬』『悲しみの歌』を中心に―
2016(H28)3	徳富蘆花・社員作家の方法 ―「夏の月」「灰燼」「除夜物語」を視座として―
2016(H28)3	『源氏物語』『夕顔』巻の「露の光」の表現 ― 引歌としての可能性の一試論 ―
2016(H28)3	謡曲《浮舟》考 ― 物語の構成意識と浮舟の救済 ―
2016(H28)3	谷崎潤一郎文学と検閲制度 ― 明治末期から大正10年までを中心に ―
2016(H28)3	岡本綺堂初期作品に通底する〈新しさ〉 ― 素材との比較を通して ―
2016(H28)3	昭和二十年代における吉井勇の短編小説をめぐって ― 「私」が「回顧」すること ―
2017(H29)3	「不思議」と「怪異」からみる『太平記』の構想と破綻
2017(H29)3	＜偶然＞と＜晩年＞のさなかで ― 花田清輝「狐草紙」「みみずく大名」の歴史観 ―
2017(H29)3	永井荷風の作品における「江戸演劇」の要素について ― 明治末年から大正初期における演劇界との関わりから ―
2017(H29)3	中世文学における孝思想 ― 物語と仏典との交渉に関する考察 ―
2017(H29)3	北杜夫作品に見られる人間認識について ― 「夜と霧の隅で」・「楡家の人びと」を中心に資料比較を通じて―
2017(H29)3	大正期谷崎潤一郎の肉体表象 ― 中性美を中心に ―
2017(H29)3	宇治拾遺物語の表現と意味解釈
2017(H29)3	中古複合動詞の助詞介在から見る「複合動詞の成熟度」について
2017(H29)3	『今昔物語集』天狗説話の話型と構成
2017(H29)3	草双紙における演劇素材の利用方法
2018(H30)3	「桐」の表現 ―『源氏物語』における「桐壺」―
2018(H30)3	自注から読み解く『西山物語』構造論
2018(H30)3	逸翁本『大江山絵詞』の特質
2018(H30)3	『近代百物語』にみる百物語怪談集の途絶の要因
2019(H31)3	中島敦『斗南先生』の「時代的意義」 ― 昭和初期の漢学者の位相と『支那分割の運命』の持つ批評性―
2019(H31)3	副詞「スナハチ」の史的考察 ― 漢文訓読の影響を中心に―
2019(H31)3	「ショーからゲームへ――＜疑似イベントもの＞における筒井康隆の実践――」
2019(H31)3	『懐風藻』における松―『文選』との比較を通して―

国文学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2019(H31)3	「憑き物の物狂」考
2020(R2)3	『源氏物語』における玉鬘の衣裳の色彩に見られる機能—撫子・常夏・山吹の使い分け—
2020(R2)3	『御伽人形』再考—「怪談」「巷談」両系所収話をめぐって—
2020(R2)3	『風雅和歌集』における撰歌意識について—京極派・二条派歌人の歌に注目して—
2021(R3)3	女性名に冠する敬語接頭辞「御」の成立と背景
2021(R3)3	小林秀雄とカメラのリアリズム—「戦争と平和」「死体写真或は死体について」論
2021(R3)3	鎮源『大日本国法華経験記』表現・基盤・思想の研究
2022(R4)3	有島武郎の童話論——「一房の葡萄」・「溺れかけた兄妹」——
2022(R4)3	平安文学における猫の夢の特徴について
2022(R4)3	横光利一『夜の靴』論——語り手「私」の位相と作品の構成について——
2022(R4)3	澁澤龍彦と「ニヒリズムの病理学」
2022(R4)3	遠藤周作『沈黙』にみる翻訳・映像アダプテーションの可能性と限界
2022(R4)3	「藍紙本萬葉集」の性格—巻第九残巻を中心に—
2023(R5)3	比況の副詞の史的変遷
2023(R5)3	歌意からみた『万葉集』巻九巻頭・雄略天皇御製歌の意義——鳴かない鹿の表現に注目して——
2023(R5)3	『苔の衣』及び『石清水物語』における「心弱し」の機能について
2023(R5)3	『宇治拾遺物語』第八四話の背景
2023(R5)3	『古事記』ワドヒメ歌謡物語の構想——その成立に注目して——
2023(R5)3	『源氏小鏡』の諸本分類再考と形容詞の機能
2024(R6)3	吉屋信子『花物語』論——武器としての差異、戦略としての反復——
2024(R6)3	特権的主体の揺動を描く——伊藤整『鳴海仙吉』論
2024(R6)3	新語「じぶんごと」の使用状況と増加要因
2024(R6)3	『万葉集』防人歌における独自性の所在——他歌群との比較を通して——

美学芸術学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2015(H27)3	マッキアイオーリの美術史的な位置付け—表現様式の考察を中心に
2015(H27)3	ヒューホ・ファン・デル・プース作《ボルティナリ祭壇画》における右からの受胎告知の図像解釈—典礼劇を手掛かりに—
2015(H27)3	フランシス・ベーコン作《ある磔刑の足元の人物たちのための三つの習作》(1944)はトリプティクか—その可能性と意義について
2015(H27)3	フィードラーの芸術論における芸術家概念に関する一考察—シュテファン・ガイガーの解釈を手がかりに—
2015(H27)3	ロヒーール・ファン・デル・ウェイデン作《ボーマ祭壇画》再考—大天使ミカエルと死のイメージをめぐる—
2015(H27)3	沖縄民謡旋律に基づく林光作品の研究
2015(H27)3	写真のデジタル化以降の「ブントウム」探求—存在しない写真をめぐって—
2015(H27)3	シュルレアリスム国際展(1938年)における“êtres-objets”とは何か?—その起源と意義
2015(H27)3	《江山楼観図巻》の南方的性格について—《十詠図巻》を手掛かりとして—
2016(H28)3	中原佑介の批評実践としての「Tokyo Biennale'70 人間と物質」展 —「臨場主義」とその展開—
2016(H28)3	ロジェ・マルクスのポスター擁護におけるレトリック —— 大衆趣味向上のために
2016(H28)3	観心寺如意輪観音像に関する三像一具説再考 —— 三世仏信仰を手がかりに
2016(H28)3	ジョヴァンニ・ベッリーニ作《聖ウインケンティウス・フェレリウス祭壇画》—ドミニコ会聖堂におけるその図像プログラム—
2016(H28)3	ピュヴィス・ド・シャヴァンヌによるリヨン市立美術館階段室壁画装飾—図像プログラムに見る19世紀フランスの愛国主義—
2016(H28)3	ティツィアーノ作《マリアの神殿奉献》に関する一考察—ヴェネツィア、マリア、カリタ(慈愛)—
2017(H29)3	河鍋暁斎筆《地獄太夫図》に関する一考察—七福神による極楽の表象—
2017(H29)3	赤瀬川原平の千円札—流通し、使用されるものとしての再解釈
2018(H30)3	若冲の画業における模写の位置づけ——模写制作と《動植綵絵》の関連を手がかりに
2018(H30)3	ヴェレシチャーギン作品の性格づけの再検討—連作《未開人》を例として—
2018(H30)3	胡舜臣《送郝玄明使秦図巻》の主題をめぐる様相について—「送別図」と「行旅図」の二面性—
2018(H30)3	東大寺法華堂における追善的機能の考察—本尊・不空絹索観音像の安置方法を中心に—
2018(H30)3	雪舟の個人様式について——《秋冬山水図》に見られる筆墨技法を手掛かりに——
2018(H30)3	ピーテル・ブリューゲル晩年の《月暦画》連作の美術史的な位置付け—ネーデルラントにおける月暦図から風景画への展開—
2019(H31)3	オディロン・ルドン《聖アントニウスの誘惑》—ルドンの画業における位置づけ
2019(H31)3	ニコラ・フロマン作《燃える柴の祭壇画》の独自性—図像的着想源の解明を通じて—
2019(H31)3	スザンヌ・レイシーによるパブリック・アート概念の拡張—美術史の再編に向けて—
2019(H31)3	ロラン・バルトの写真論におけるイメージと観者:「亡霊」と「観客」をめぐる
2019(H31)3	名取春仙の挿絵に見る新しい内面表現—『三四郎』に注目して—
2020(R2)3	正源寺本《日吉山王垂迹神曼荼羅》考—図像からみる制作背景—
2021(R3)3	ボードレー「現代生活の画家」に関する一考察——その絵画理念と思想的背景について——
2022(R4)3	ターナー晩年の洪水連作——図像解釈の試み
2022(R4)3	明治輸出工芸 新たな表現の創造——宮川香山 高浮彫作品群——

美学芸術学専攻 修士論文一覧

授与年月	論文名
2023(R5)3	特撮スーツという記号 ——「仮面ライダー」シリーズのキャラクターデザインをめぐって——
2023(R5)3	「熊野観心十界図」〈六道珍皇寺甲本〉研究考 ——「老いの坂」図を手がかりとして——
2023(R5)3	なぜ高松次郎は「形」シリーズを制作したのか ——絵本『国生み』、『水仙月の四日』を手掛かりに——
2024(R6)3	サセッタ作《ボルゴ・サン・セポルクロ多翼祭壇画》図像解釈の試み
2024(R6)3	ジョン・シャーカフスキー再考—その写真及び写真集の分析を通して